



私のひとりごと

「迷った時には…」

仕事も一段落し「飯でも食いにいこう！」と、不用意にも言ってしまった。二人の息子達もすっかりその気になり、「たまには廻らない寿司屋に連れて行ってくれ。」と言うが、私だって長年行った事がない。一皿いくらの廻る寿司が定番である。ところが財布の中身を見ると、3,000円ポッキリで一人1,000円の予算である。う〜ん・・・これでは行けない事もないが一皿間違えれば無銭飲食にもなりかねず、あまりにもスリルが有りすぎる。色々迷ったあげくヨーロッパ軒の「カツ丼」に決まった。そこならメニューで金額を確認すれば足だしする事もなく1,000円で十分である。そんな訳で安心安全の道を選んだ。



大安定。変わらない味です(´▽`)

私とヨーロッパ軒の「カツ丼」との出会いは40年以上も前の事になる。大工修行で親方に弟子入りした時、初めて連れて行ってもらった店がヨーロッパ軒であった。当時の建物は木造の二階建てで、店内はお客様でござった返し食事を待つ長い行列が店の外まで続いていた。田舎物の私には外食をするという生活習慣はなく、まして長い時間待って食べるなど想像すら出来ない次元で、ただただ驚きであった。あれから40年・・・たまに行くぐらいだがメニューも殆ど変わりなく、タメグチ?で接客する

おばちゃん達の接客スタイルや味も変わらない。少し変わったと言えば、たくあんの厚みぐらいである。なんでもない様な事柄ではあるが、目線を変えて見れば半世紀以上の長きに渡り、味もスタイルも変えずに続けるオーナーの思いには驚きを隠せない。多様化した外食産業の中であって、もはやフランチャイズ店でしか生き残れないと思われる昨今、一つの味とスタイルにこだわり続け、また価格競争にも巻き込まれず生き残る事は神業に近いものと思われる。そこにオーナーの並々ならぬ苦勞と信念が感じられるのだ。誰でも時代の流れに左右され押し潰されそうになる。その時、誰もがスタイルを変え変化しようともする。また無意識に安心で安全な道を選ぼうともする。えてしてその先は独自性を無くしたフランチャイズ加盟店の道などになる。勿論、生き残る為の一つの方法で否定するものではないが、安定と引き換えにロマンを失う結果となる。一つの味にこだわり続けた「カツ丼」は苦勞と引き換えに「福井の名物」という称号を手に入れた。どちらが良いとか悪いとかの話ではなく、どちらを選びたいかの話である。私などは毎日が迷い迷いの日々でさっぱり信念が定まらない。と言うか最初から信念など無いのかもしれない。この歳になりいい加減に生きてきた人生の付けが回り、「情けないなあ〜」と思われる出来事が多くなってきた・・・。特に息子達とのやり取りの中に感じる時が多くなった気がする。私が若い頃、子供達に空手を教えていたが、長い年月の間に教えていた子供達も立派な青年となり、やがて勝てなくなり現役引退を決めた時の淋しさと悔しさに似ている。そんな私の心を察してか、家内が「お父さん、ご飯をたくさん食べんと子供達と戦えんで」と言う・・・。

まだまだシビアな戦国の世は続きそうだが、私にとってヨーロッパ軒の「カツ丼」は美味しさだけに留まらず、人生の教訓にも似た味を醸し出しているように思う。壁にぶち当たった時、心に迷いが生じた時などにはお勧めのメニューである。

ではまた来月もお会いしましょう。
今月も最後まで読んでいただき・・・

あーがしう
ごさいました!!

